

在宅医療・自立支援研究開発部

(1) 構成員

部長 近藤 和泉

室長

自立支援システム開発室 島田 裕之

長寿看護・介護研究室 大島 浩子

在宅医療研究室 佐竹 昭介

14 が採用・掲載されているが、大島・佐竹研究室においても、国際的な業績が残せるよう、年度末までその準備に取り組んだ。

各開発・研究室における研究の概要は、以下を参照されたい。

流動研究員

土井 剛彦

特任研究員

阿南 祐也

客員研究員

池田 聡

外来研究員

牧迫 飛雄馬 吉田 大輔

上村 一貴 鈴木 啓文

研究補助員・事務補助員

西川 幸江 佐藤 淑子

加藤 千恵 水野 和佳子

菊池 綾子 井上 ひとみ

堤本 広大 関 なほ佳

岩瀬 真琴 白波瀬 景子

橋本 菜穂

(2) 平成 23 年度研究活動の概要

1ヶ月に1回のペースで、各研究室長と個別にOne on One meetingを行って、リサーチ・マネージメントを継続している。本年度は、近藤および島田開発室を中心に英文原著

自立支援システム開発室: 島田裕之、土井剛彦、
牧迫飛雄馬、吉田大輔、阿南祐也、堤本広大、伊藤 忠、上村一貴
高齢者の身体および認知機能の実態調査

高齢期における虚弱や軽度認知障害は、生活機能の低下を来す主要な原因である。生活機能低下を予防するためには、できるだけ早期にその兆候を発見して、早期対処方法を検討する必要がある。しかし、虚弱や軽度認知障害は、いまだその操作的定義が確立していない。そこで、本研究室における今年度の研究課題は、虚弱と軽度認知障害を早期にスクリーニングするためのシステムを開発し、大規模集団に対する検査を実施し、高齢者の身体と認知機能の実態を明らかにすることとした。

大府市に在住する高齢者約 16,000 名を対象とした。除外基準は、国立長寿医療研究センターが実施する長期縦断疫学研究に参加していることと要介護3以上の認定を受けていることとした。8月から翌年2月の約6か月間の調査を実施して 5,111 名の高齢者の調査を完了した。

虚弱高齢者のスクリーニングでは、同意の得られた 5,104 名から Fried ら(2001)の除外基準に該当する者を除く 4747 名を分析対象者とした。虚弱の操作的定義とされる5項目(体重減少、疲労感、身体活動、歩行速度、握力)に対して項目反応理論による項目分析を行った結果、歩行速度の識別力が最も高い値を示した。そこで、歩行速度の基準に該当し、なおかつ、その他の1項目以上に該当する者を pre-frail および frail とした(図1)。

軽度認知障害者(mild cognitive

impairment; MCI)のスクリーニングにおいては、同意の得られた 5,104 名から、Petersen らの定義に則り、①主観的な物忘れの訴えがある、②年齢に比して認知機能が低下している(平均値の 1.5SD 以下)、③日常生活動作が自立している、④全般的な認知機能は正常範囲である、⑤認知症は認めないという基準を設けて対象者を選定した。その結果、922 名が MCI の基準に該当した。そのうち、記憶機能低下を示した健忘型 MCI は 448 名であり、記憶機能以外の認知機能低下を示した非健忘型 MCI は 474 名であった。記憶機能以外の認知機能としては、注意機能、遂行機能、情報処理能力、視空間認知能力を採用した。さらに、脳神経疾患の既往歴、Clinical depressionなどを除外した642名が対象として、介入研究の参加を募り、403 名から同意を得てベースラインの調査を遂行している(図2)。

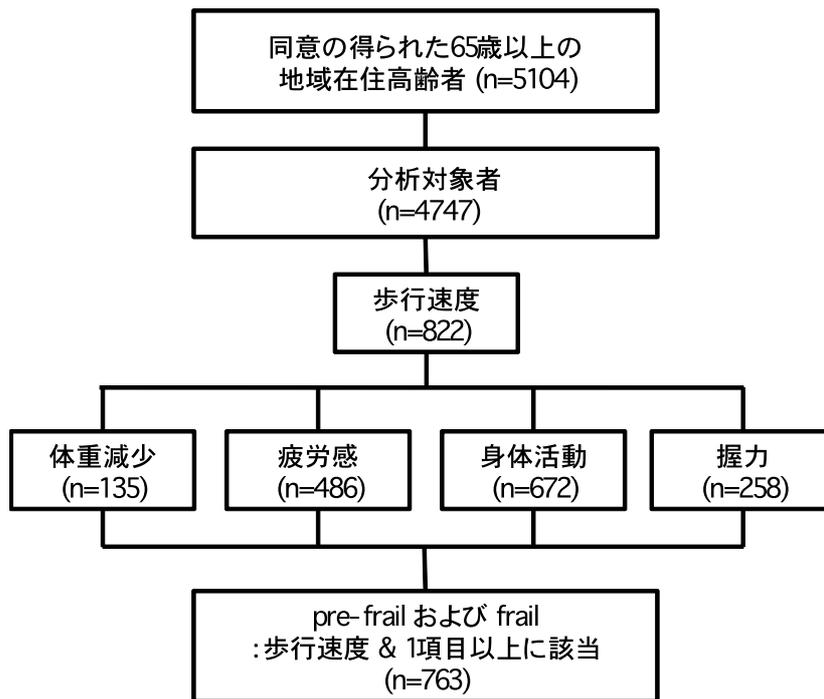


図1 虚弱抽出のフロー

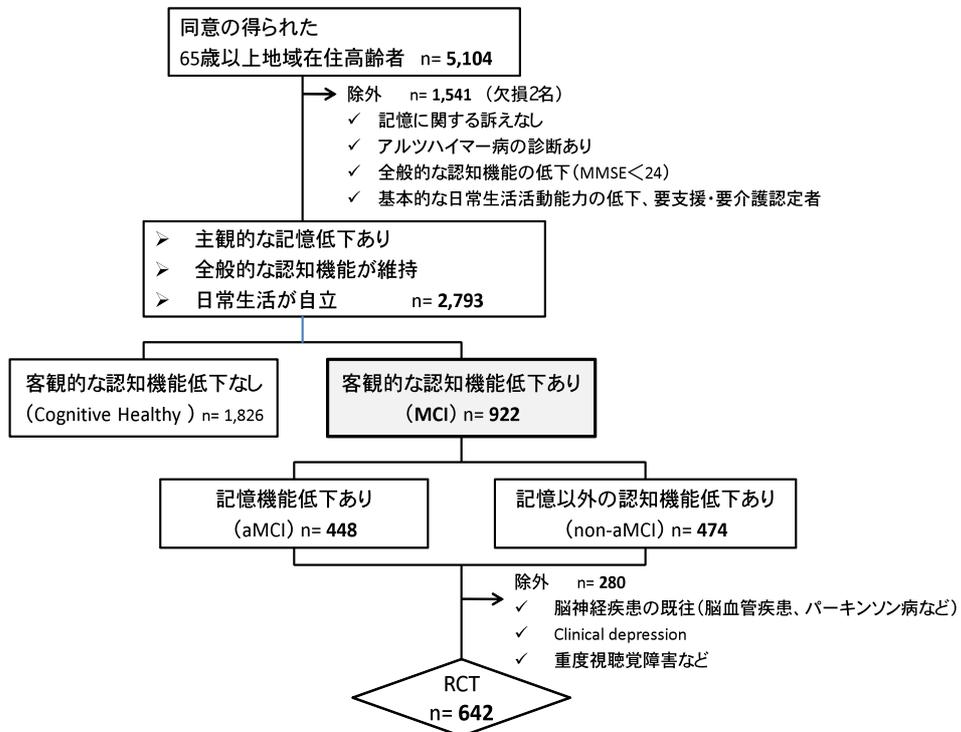


図2 MCI 抽出のフロー

長寿看護・介護研究室:大島浩子, 大塚理加
国立長寿医療研究センターを中心とした在宅医療推進に関する研究

本年度は, 当センター内外と連携し, 当センター南3病棟登録患者における在宅復帰再入院リスク, 在宅療養継続困難リスク, 在宅療養継続の関連要因について示した。また, 地域包括支援センターにおける地域高齢者の栄養への取り組みの調査から, 多職種連携, 特に医療機関との連携の重要性を示した。次年度は, 患者特性とケアの類型化, 多職種連携・協働に関する具体的な検討を行なう予定である。

立ち乗り搭乗型生活支援ロボットの試乗と安全性の検討を行なった。

① 当センター南3病棟登録患者の特性, 在宅療養継続の関連要因の検討(大島, 当センター南3病棟と連携)

・在宅療養継続期間とその関連要因の検討: 訪問調査

在宅療養期間の検討から, 1年未満は1年以上に比して, 年齢が若く($p < 0.05$), 症状数多く($p < 0.05$), 医療処置有る多く($p < 0.05$), 在宅療養選択者が本人($p < 0.05$)であるが, QoLが低く($p < 0.05$)だった。

・在宅復帰困難要因: 症例対照研究

本人の在宅療養希望無 ($OR=6.60$, $95\%CI=2.21-19.79$, $p=0.001$), 家族の受け入れ困難 ($Odds\ Ratio(OR)=6.06$, $95\% Confidential\ Intervals(CI)=1.75-20.93$, $p=0.004$), 在院日数が長い ($OR=1.03$, $95\%CI=1.00-1.06$, $p=0.044$) が関連する

ことが示唆された。

・再入院の関連要因の検討

退院時の通所サービス利用有 ($OR=2.65$, $95\%CI=1.48-4.75$), 吸引有 ($OR=2.62$, $95\%CI=1.31-5.24$), 胃瘻有 ($OR=2.36$, $95\%CI=1.07-5.21$) が強く関連していた。

② 在宅医療における栄養管理・多職種連携の検討(大塚)

地域包括における在宅高齢者の栄養への取り組みの実態や課題を明らかにし, 地域とのネットワークと多職種連携, 特に医療機関との連携が重要であることが示唆された。今後は, 具体的な支援方法の検討が必要である。

③ 搭乗型生活支援ロボット開発研究(大島, 当センター, トヨタと連携)

本研究は, 立ち乗り搭乗型ロボットの試乗と安全性を検討し, 乗降車時に危険性・恐怖感を有すること, 循環器系の影響が少ない可能性を示した。

④ 在宅医療推進に関する政策提言
(大島, 当センター, 厚生労働省)

関係団体の意見集約, 在宅医療推進会議, 在宅医療推進フォーラム等を通し在宅医療の普及・提言を実施した。

在宅医療研究室:佐竹昭介
虚弱症候群を有する高齢者の特徴に関する研究
認知症患者家族向けパンフレットの作成

A. 虚弱症候群を有する高齢者の特徴に関する研究

国立長寿医療研究センター高齢者総合診療科および呼吸器科に、慢性疾患の治療のため通院する自力歩行可能な65歳以上の高齢者を対象として、Friedらの虚弱症候群を有する高齢者と虚弱症候群ではない高齢者の特徴を検討した。認知症がなく、dual-energy X-ray absorptiometry(DXA)による身体組成評価を行った34名の男性を対象とした。Friedらの提唱する基準に準じて虚弱症候群を診断し、虚弱症候群を有する群(F群)と有しない群に分け、虚弱症候群を有しない群をさらに若年群(YE群)と高齢群(OE群)に分けて3群間の比較を行った。患者の有する併存症は、Charlson's Co-morbidity Index(CCI)で評価した。平均年齢は、71.8歳、81.5歳、79.5歳(YE群:18名、OE群:10名、F群:6名の順)で、CCIによる併存疾患の影響は3群間で有意差はなかった。年齢の影響が大きいと判断された項目(YE群と他の2群に有意差)は、握力、functional reachで、虚弱の影響が大きいと考えられた項目(F群と他の2群に有意差)は、BMI、腹囲、上腕周囲長、Relative Appendicular Skeletal Muscle Index、TMT、MNAであった。運動量、MMSEは3群間に有意差はなかった。虚弱症候群を有する者は、虚弱症候群のない同年代の患者に比べて、サルコペニアや低栄

養を合併し、脳の実行機能も低下していた。

B. 認知症の家族向けパンフレット「認知症を患う人を支えるご家族の方へ」の作成

認知症患者の在宅医療を支援する目的で、家族向けのパンフレットを作成した。パンフレットは、

- 1 介護者のタイプとストレス
- 2 タイプ別の介護アドバイス
- 3 認知症という病気について:Q&A
- 4 もの忘れセンターの診療の流れ

の4つの章に分け、介護者のストレスを軽減する参考資料になることを目的として構成した。

もの忘れセンターを始め、高齢者総合診療科、精神科でも配布を行った。

参考文献

なし

研究業績(在宅医療・自立支援開発部)

I. 論文発表等

1. 原著

Teranishi T, Kondo I, Sonoda S, Wadaa Y, Miyasaka H, Tanino G, Narita W, Sakurai H, Okada M, Saitoh E:

Validity study of the standing test for imbalance and disequilibrium (SIDE): Is the amount of body sway in adopted postures consistent with item order?

Gait & Posture, 34. 295-299, 2011

Fujii W, Kondo I, Baba M, Saitoh E, Shibata S, Okada S, Onogi K, Mizutani H:

Examination of chew swallow in healthy elderly persons: Does the position of the leading edge of the bolus in the pharynx change with increasing age?

Jpn J Compr Rehabil Sci, 2. 48-53. 2011

Okamoto S, Sonoda S, Tanino G, Tomoda K, Okazaki H, Kondo I:

Change in Thigh Muscle Cross-Sectional Area Through Administration of an Anabolic Steroid During Routine Stroke Rehabilitation in Hemiplegic Patients.

Am J Phys Med Rehabil, 90. 106-111. 2011

Wada Y, Kondo I, Sonoda S, Yamada K, Narukawa A, Kawakami K, Nonoyama S, Miyasaka H, Teranishi T, Nagai S, Takeshima N:

Mirror therapy for severely affected ankle joints of stroke patients.

Jpn J Compr Rehabil Sci, 2. 71-76. 2011

Kawarada S, Kondo I, Sonoda S, Yokoyama E, Tazawa Y, Yabunaka Y:

Relationship between range of motion of lower extremity and gross motor function in children with cerebral palsy who have walking ability.

Jpn J Compr Rehabil Sci, 2. 82-88. 2011

Teranishi T, Kondo I, Sonoda S, Kagaya H, Wada Y, Miyasaka H, Tanino G, Narita W, Sakurai H, Okada M, Saitoh E:

A discriminative measure for static posture-keeping ability to prevent in-hospital falls: Reliability and validity of the standing test for imbalance and disequilibrium (SIDE).

Jpn J Compr Rehabil Sci, 1:11-16, 2010.

Yoshida D, Shimada H, Harada A, Matsui Y, Sakai Y, Suzuki T:

Estimation of appendicular muscle mass and fat mass by near infrared spectroscopy in older persons.

Geriatr Gerontol Int, in press.

Shimada H, Kato T, Ito K, Makizako H, Doi T, Yoshida D, Shimokata H, Washimi Y,

Endo T, Suzuki T:
Relationship between Atrophy of the Medial Temporal Areas and Memory Function in Elderly Adults.

European Neurology, 67:168-177, 2012.

Doi T, Makizako H, Shimada H, Yoshida D, Ito K, Kato T, Ando H, Suzuki T:
Brain Atrophy and Trunk Stability during Dual-task Walking among Older Adults.

The Journals of Gerontology: Series A, in press.

Saito K, Yokoyama T, Yoshida H, Kim H, Shimada H, Yoshida Y, Iwasa H, Shimizu Y, Kondo Y, Handa S, Maruyama N, Ishigami A, Suzuki T:

A Significant Relationship between Plasma Vitamin C Concentration and Physical Performance among Japanese Elderly Women.

Journal of Gerontology, in press.

Shimada H, Suzukawa M, Ishizaki T, Kobayashi K, Kim H, Suzuki T:

Relationship between subjective fall risk assessment and falls and fall-related fractures in frail elderly people.

BMC Geriatrics, 11:40, 2011.

Doi T, Asai T, Hirata S, Ando H:

Dual-task costs for whole trunk movement during gait.

Gait Posture, 33(4): 712-714, 2011.

Shimada H, Tiedemann A, Lord SR, Suzukawa M, Makizako H, Kobayashi K, Suzuki T:
Physical factors underlying the association between lower walking performance and falls in older people: a structural equation model.

Arch Gerontol Geriatr, 53(2): 131-134, 2011.

Shimada H:

Imaging of glucose uptake during walking in elderly adults.

Current Aging Science, 5(1):51-57, 2012.

Makizako H, Shimada H, Doi T, Yoshida D, Ito K, Kato T, Shimokata H, Washimi Y, Endo H, Suzuki T:

The association between decline in physical functioning and atrophy of medial temporal areas in community-dwelling older adults with amnestic and non-amnestic mild cognitive impairment.

Arch Phys Med Rehabil, 92:1992-1999, 2011.

Hasidate H, Shimada H, Shiomi T, Sasamoto N:

Usefulness of the subjective risk rating of specific tasks for falling in frail elderly people.

J Phys Ther Sci, 23(3): 519-524, 2011.

Suzukawa M, Shimada H, Tamura M, Suzuki T, Inoue N:
The relationship between the subjective risk rating of specific tasks and falls in frail elderly people.

J Phys Ther Sci, 23(3): 425-429, 2011.

Ishizaki T, Furuna T, Yoshida Y, Iwasa H, Shimada H, Yoshida H, Kumagai S, Suzuki T. for the TMIG-LISA Research Group:

Declines in physical performance by sex and age among nondisabled community-dwelling older Japanese over a six-year period.

Journal of Epidemiology, 21(3): 176-83, 2011.

Shimada H, Sturnieks D, Endo Y, Kimura Y, Suzuki T, Oda K, Ishii K, Ishiwata K:
Relationship between whole body oxygen consumption and skeletal muscle glucose metabolism during walking in older adults: FDG PET study.

Aging Clin Exp Res, 23(3): 175-82, 2011.

Abe T, Suzuki T, Yoshida H, Shimada H, Inoue N:

The Relationship Between Pulmonary Function and Physical Function and Mobility in Community-Dwelling Elderly Women Aged 75 Years or Older.

J Phys Ther Sci, 23, 443-449, 2011.

吉田大輔, 中垣内真樹:

“運動+食事制限による減量プログラム”の効果に関する報告.

臨床栄養, 120, 219-223, 2012.

橋立博幸, 島田裕之, 潮見泰藏, 笹本憲男:

高齢者における筋力増強運動を含む機能的トレーニングが生活機能に及ぼす影響.

理学療法学, in press.

大沼剛, 牧迫飛雄馬, 阿部勉, 三浦久幸, 島田裕之:

訪問リハビリテーション利用者における在宅生活継続を阻害する要因.

日本老年医学会雑誌, 49(2), 49:214-221, 2012.

島田裕之, 吉田大輔:

日本における認知症の現在と今後の動向.

訪問リハビリテーション, 1(5), 309-313, 2011-12.

島田裕之, 牧迫飛雄馬, 吉田大輔, 土井剛彦, 堤本広大, 阿南祐也:

介護予防の新たな方向性: 認知機能低下予防の効果.

地域リハビリテーション, 6(12), 928-932, 2011.

島田裕之:

筋力と身体活動の評価法.

Modern Physician, 3(11), 1296-1299, 2011.

島田裕之:

運動器疾患維持期の基本的アプローチとその効果判定(在宅含む).

理学療法学, 38(4), 252-253, 2011.

牧迫飛雄馬, 古名丈人, 島田裕之, 赤沼智美, 吉田裕人, 井平 光, 横山香理, 鈴木隆雄:

後期高齢者における新規要介護認定の発生と5m歩行時間との関連: 39 か月間の縦断研究.

理学療法学, 38, 27-33, 2011.

鈴木芽久美, 島田裕之, 渡辺修一郎, 小林久美子, 鈴木隆雄:

要介護高齢者における運動機能と6か月後のADL低下との関係.

理学療法学, 38, 10-16, 2011.

水本淳, 鈴木芽久美, 牧迫飛雄馬, 土井剛彦, 島田裕之:

ステップエルゴメーターのアイソキネティック運動におけるピークパワーと身体機能との関連.

理学療法科学, 26, 139-142, 2011.

古名丈人, 牧迫飛雄馬, 井平光, 波戸真之介, 島田裕之, 木村美佳, 水間正澄:

郵便を利用した介入頻度の違いが運動機能や社会機能に及ぼす影響-積雪・寒冷・過疎地域在住高齢者における検討-

応用老年学, 5(1), 40-49, 2011.

大島浩子, 中村孔美, 松本明美, 鈴木隆雄:

在宅医療を支援する病棟における初回入院患者の特性の検討-在宅復帰支援と在宅継続支援の比較-

日本在宅医学会雑誌, 13(2), 107-112, 2012.

大島浩子, 中村孔美, 松本明美, 鈴木隆雄:

登録制による在宅医療を支援する病棟における癌患者と非癌疾患の検討.

癌と化学療養, 38(Suppl I)53-55, 2011.

大塚理加, 野中久美子, 菊地和則, 高橋龍太郎:

介護支援専門員の高齢者虐待事例への対応プロセスとその促進・阻害要因に関する研究.

社会福祉学, 51(4) 104-115, 2011.

2. 総説

近藤和泉:

リハビリテーション医の一人として- AKA 一博田法を考える-

日本関節運動学的アプローチ医学会誌, 12, 59-64, 2011.

清水康裕、近藤和泉、才藤栄一：
脊髄障害に対する下肢機能再建と理学療法
理学情報ジャーナル, 45(12), 1033-1039

近藤和泉、尾崎健一：
ニューロリハビリテーションにおけるロボット
MEDICAL REHABILITATION, 141, 27-31, 2012.

近藤和泉、尾崎健一、小野木啓子：
高齢者のメンタルケアの要点
THE BONE, 26, 99-104, 2012.

近藤和泉、尾崎健一：
災害時におけるリハビリテーション医療
Geriatric Medicine, 50(3), 313-316, 2012.

島田裕之：
講座 よくわかる研究法 25 研究への私の取り組み：大規模スクリーニング調査実施の経
験を交えて。
理学療法, 29(3), 329-335, 2012.

島田裕之、朴眩泰：
特集：高齢者の脳機能と運動 アルツハイマー病予防に対する運動の効果。
体育の科学, 62(3), 200-208, 2012.

島田裕之：
第 27 回日本老年学会総会記録〈パネルディスカッション 1:介護予防:現状・課題と新たな
方向性〉4.認知機能低下予防。
日本老年医学会雑誌, 49(1), 60-62, 2012.

鈴木隆雄、島田裕之：
認知症予防:運動療法。
医学のあゆみ, 239(5), 392-399, 2011.

島田裕之、吉田大輔：
虚弱とサルコペニア (概念の相違)。
Geriat. Med, 49 (3), 291-295, 2011.

牧迫飛雄馬：
介護予防とロコモティブシンドローム。
理学療法ジャーナル, 45(4), 293-298, 2011.

佐竹昭介:

虚弱の考え方

Geriatric medicine(老年医学), Vol49(3): 285-289, 2011.

佐竹昭介:

サルコペニアとは

臨床栄養 Vol118(6): 561-565, 2011.

3. 著書, Chapters

近藤和泉:

小児リハビリテーションポケットマニュアル

運動障害の概要と評価, pp38-44, 診断と治療社、東京、2011.

Shimada H:

Glucose Uptake During Exercise in Skeletal Muscles Evaluated By Positron Emission Tomography.

Chia-Hung Hsieh (Ed.): Positron Emission Tomography - Current Clinical and Research Aspects. InTech, Croatia, 319-336, 2012.

牧迫飛雄馬:

第 13 章回復期リハビリテーションにおける臨床研究のすすめ.

PT・OT・ST のための脳損傷の回復期リハビリテーションー運動・認知・行動からのアプローチ

森田秋子(編集), 三輪書店, 201-211, 2012.

島田裕之:

サルコペニアの操作的定義 (第 2 章 第 1 節). サルコペニアの基礎と臨床

鈴木隆雄 (監修), 島田裕之(編集), 真興交易(株), 12-21, 2011.

牧迫飛雄馬:

サルコペニア予防のリハビリテーション (第 5 章 第 4 節). サルコペニアの基礎と臨床

鈴木隆雄 (監修), 島田裕之 (編集), 真興交易(株), 178-184, 2011.

鈴木芽久美, 島田裕之:

サルコペニアと障害高齢者 (第 4 章 第 3 節). サルコペニアの基礎と臨床

鈴木隆雄 (監修), 島田裕之(編集), 真興交易(株), 133-139, 2011.

古名丈人, 牧迫飛雄馬:

サルコペニアによる機能障害 (第 3 章 第 3 節). サルコペニアの基礎と臨床

鈴木隆雄 (監修), 島田裕之 (編集), 真興交易(株), 98-105, 2011.

3. その他

該当なし

4. 新聞・報道等

島田裕之:

CBC テレビ, イッポウ, 平成 23 年 11 月 22 日, 特集「脳とからだの健康チェック」

島田裕之:

北國新聞, 平成 23 年 11 月 13 日, 寝たきり、認知症予防「小さなサインに注意」シニアライフフェア 専門家が語る

島田裕之:

Medical Tribune, 平成 23 年 11 月 3 日, Vol.44, No.44, 国内ニュース 第 1 回日本認知症予防学会 ～MCI 高齢者へ運動介入～ 言語機能、記憶機能が向上

島田裕之:

北國新聞, 平成 23 年 10 月 27 日, 特集 いきいきシニアライフ 「運動でねたきりと認知症を予防できるか？」

島田裕之:

CBC ラジオ, 多田しげおの気分爽快!, 平成 23 年 8 月 26 日, 「なんと無料! 脳とからだの健康チェック」

島田裕之:

Medical Tribune, 平成 23 年 9 月 8 日, Vol.44, No.36, 第 27 回日本老年学会「介護予防 高リスク者の運動器、認知機能などが改善」

島田裕之:

中日新聞 朝刊 県内版, 平成 23 年 8 月 13 日, 脳と体力を数値で測定

5. 特許申請、取得状況

該当なし

II. 学会・研究会発表等

1. シンポジウム、特別講演

Kondo I:

Robotics for Rehabilitation of Locomotion-with the Consideration of Aging Society in Japan,

25th Anniversary of Korea National Rehabilitation Center

The 3rd international Symposium on Rehabilitation Research, Nov.3, 2011, Seoul

近藤和泉:

姿勢コントロールの実技セミナー -小児リハの理解のために-

第6回日本リハビリテーション医学会専門医会学術集会, 2011 年 12 月 11 日, 神戸市

近藤和泉:

認知症リハビリテーション・プロジェクトについて -認知症におけるニューロリハビリテーション-,

第3回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会, 2012年2月25日, 横浜市

島田裕之:

パネルディスカッション 介護予防: 現状・課題と新たな方向性「認知機能低下予防」.

第27回日本老年学会総会, 2011年6月15日, 東京.

Shosuke Satake

Preventive long-term care in Japan: Screening Tool “Kihon Checklist” for the frail elderly.

3rd International Quebec-Japan Symposium, September 22-23, 2011, Montreal, Canada

佐竹昭介

虚弱とサルコペニア

第18回日本未病システム学会学術総会, 11月19日, 名古屋

2. 国際学会発表

Senda K, Nagaya M, Satake S, Kondo I, Shibasaki M, Nishikawa M, Nakashima K, Endo H:

Nutritional Status as Part of Comprehensive Geriatric Assessment for Japanese Elderly Pulmonary Rehabilitation Patients,

Nineth Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology and Geriatrics (GERO2011), 2011, Oct23-27, Melbourne

Satake S, Senda K, Young-Jae Hong, Miura H, Endo H, Kondo I, Toba K:

The validity of the “Kihon Checklist”: For the estimation of the frail elderly,

International Conference on Frailty Research 2011, November 25-27, 2011, Taipei

Senda K, Satake S, Kondo I, Shibasaki M, Nishikawa M, Nakashima K, Endo H, Toba K:

Frailty and Sarcopenia in Japanese Elder Patients with Chronic Obstructive Pulmonary Disease Undergoing Ambulatory Pulmonary Rehabilitation

International Conference on Frailty Research 2011, November 25-27, 2011, Taipei

Kondo I, Kawarada S, Yabunaka Y, Ozaki K, Saitoh E:

Rasch Analysis of Functional Skills Evaluated with Using PEDI for Children with Cerebral Palsy,

The 1st KOREA-JAPAN NeuroRehabilitation Conference, March 17, 2012, Seoul, Korea

Miyasaka H, Tomita Y, Kondo I, Orand A, Kato H, Miyata M, Kondo T, Kawakami K, Sonoda S:

A Randomized Controlled Trial Treatment Effect for Paralyzed Arm After Stroke,
The 1st KOREA-JAPAN NeuroRehabilitation Conference, March 17, 2012, Seoul,
Korea

Doi T, Shimada H, Suzuki T, Makizako H, Yoshida D, Shimokata H, Ito k, Washimi Y, Endo H:

Whole Brain Atrophy and Spatial-temporal Gait Parameters during Dual-task Gait.
Alzheimer's Association International Conference on Alzheimer's Disease, July 19,
2011, Paris.

Shimada H, Ishii K, Suzukawa M, Ishiwata K, Oda K, Makizako H, Doi T, Yoshida D, Suzuki T:

Effect of exercise on regional brain glucose metabolism in elderly adults: a
randomized control trial.
Alzheimer's Association International Conference on Alzheimer's Disease, July 19,
2011, Paris.

Yoshida D, Shimada H, Makizako H, Doi T, Ito K, Kato T, Shimokata H, Washimi Y, Endo H, Suzuki T:

The relationship between atrophy of the medial temporal area and daily activities in
community-dwelling older adults.
Alzheimer's Association International Conference on Alzheimer's Disease, July 19,
2011, Paris.

Makizako H, Shimada H, Suzuki T, Doi T, Yoshida D, Shimokata H, Ito K, Washimi Y, Endo H:

Dual-task performance and neurocognitive functions in older adults with and without
amnesic mild cognitive impairment.
Alzheimer's Association International Conference on Alzheimer's Disease, July 19,
2011, Paris.

Shimada H, Doi T, Makizako H, Yoshida D, Suzuki T:

Brain activation pattern during gait in healthy elderly: An FDG PET study.
The World Confederation for Physical Therapy, June 23, 2011, Amsterdam.

Makizako H, Shimada H, Doi T, Yoshida D, Suzuki T:

Aerobic capacity is related to entorhinal cortex atrophy in community-based older
adults with mild cognitive impairment.
The World Confederation for Physical Therapy, June 23, 2011, Amsterdam.

Doi T, Shimada H, Makizako H, Yoshida D, Suzuki T:

The characteristics of mobility and cognitive function in early and late stage with mild cognitive impairment.

The World Confederation for Physical Therapy, June 23, 2011, Amsterdam.

Ohshima H, Suzuki T:

A case-control study of home care among the elderly registered at a hospital.

The 2nd Japan-Korea Joint Conference on Community Health Nursing, July 18, 2011, Kobe.

3. 国内学会発表

佐竹昭介、千田一嘉、洪英在、三浦久幸、遠藤英俊、近藤和泉:

虚弱症候群を有する高齢者の特徴.

日本老年医学会, 2011年6月17日, 東京

加藤啓之、宮坂裕之、安井千恵子、植松瞳、宮田幹子、中西千佳子、和田典子、近藤和泉、園田茂:

脳卒中麻痺側上肢運動覚障害に対する電気刺激の有効性: 予備的検討.

日本脳卒中学会, 2011年7月31日, 京都

近藤和泉:

リハビリテーションについて.

知多地域精神医療懇話会 認知症作業部会, 2012年1月28日, 名古屋市

岡崎英人、別府秀彦、水谷謙明、山口久美子、近藤和泉、才藤栄一、園田茂:

ラットにおける幹細胞増殖因子の筋萎縮と運動不可との関係-血清と血漿のちがい-

第30回日本リハビリテーション医学会中部・東海地方会, 2012年2月4日, 名古屋市

清水康裕、加藤謙司、原修、近藤和泉:

脳卒中によって遷延性意識障害を来した患者の装具療法-MSH-KAFOの使用経験-

第30回日本リハビリテーション医学会中部・東海地方会, 2012年2月4日, 名古屋市

Izumi Kondo, Kenichi Ozaki, Keiko Onogi, Eichi Saitoh:

RASCH ANALYSIS OF FUNCTIONAL SKILLS EVALUATED WITH USING PEDIATRIC EVALUATION OF DISABILITY INVENTORY(PEDI) FOR CHILDREN WITH CEREBRAL PALSY.

第3回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会, 2012年2月25日, 横浜市

別府秀彦、水谷謙明、高柳尚貴、園田茂、岡崎英人、新里昌功、山口久美子、富田豊、近藤和泉、高橋久英:

運動失調マウス B6-wobt の行動解析(7) 強制歩行運動が運動協調性に与える影響.

第3回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会, 2012年2月25日, 横浜市

岡崎英人、別府秀彦、水谷謙明、山口久美子、近藤和泉、才藤栄一、園田茂：
ラットにおける肝細胞増殖因子の筋委縮と運動負荷との関係-負担量の違いによる検討。
第 48 回日本リハビリテーション医学会学術集会，2011 年 11 月 2 日，千葉市

成田渉、中川裕規、宮坂裕之、金森理恵子、下村康氏、才藤栄一、近藤和泉：
入院中/退院後も使える高次脳機能障害評価法作成の試み。
第 48 回日本リハビリテーション医学会学術集会，2011 年 11 月 2 日，千葉市

園田茂、奥山夕子、登立奈美、渡辺誠、川原由紀奈、木下恵子、岡本さやか、岡崎英人、
水野志保、前田博士、成田渉、田中貴志、尾崎幸恵、崎原尚子、近藤和泉：
脳卒中患者の FIM 得点別 ADL 項目難易度パターンは年齢に影響を受けるか。
第 48 回日本リハビリテーション医学会学術集会，2011 年 11 月 3 日，千葉市

三栖翔吾，浅井剛，土井剛彦，堤本広大，澤龍一，小野玲：
加速度・角速度ハイブリットセンサを用いた新たな歩行解析方法による時間的指標計測の
妥当性の検討。
第 33 回臨床歩行分析研究会定例会，2011 年 12 月 11 日，福岡。

島田裕之：
軽度認知障害高齢者に対する運動の認知機能低下抑制効果.RCTによる検討。
第 1 回日本認知症予防学会学術集会，2011 年 9 月 10 日，米子。

牧迫飛雄馬，島田裕之，土井剛彦，吉田大輔，伊藤健吾，下方浩史，鷺見幸彦，遠藤
英俊，鈴木隆雄：
軽度認知障害を有する高齢者の QOL と関連する要因。
第 53 回日本老年医学会学術集会，2011 年 6 月 17 日，東京。

吉田大輔，島田裕之，牧迫飛雄馬，土井剛彦，伊藤健吾，下方浩史，鷺見幸彦，遠藤
英俊，鈴木隆雄：
認知障害と関連する日常生活活動の検討。
第 53 回日本老年医学会学術集会，2011 年 6 月 17 日，東京。

金憲経，吉田英世，吉田祐子，齋藤京子，小島成美，平野浩彦，島田裕之，鈴木隆雄：
地域在住高齢者における膝痛の実態及び生活機能との関連性について。
第 53 回日本老年医学会学術集会，2011 年 6 月 17 日，東京。

島田裕之，伊藤健吾，牧迫飛雄馬，土井剛彦，吉田大輔，下方浩史，鷺見幸彦，遠藤
英俊，鈴木隆雄：
高齢者における嗅内野皮質周囲の萎縮と認知機能との関係。
第 53 回日本老年医学会学術集会，2011 年 6 月 16 日，東京。

土井剛彦，島田裕之，牧迫飛雄馬，吉田大輔，下方浩史，伊藤健吾，鷺見幸彦，遠藤
英俊，鈴木隆雄：

文字流暢性課題とカテゴリー流暢性課題の課題特性.
第 53 回日本老年医学会学術集会, 2011 年 6 月 16 日, 東京.

橋立博幸, 島田裕之, 潮見泰藏, 笹本憲男:
特定高齢者における3ヶ月間の筋力トレーニングと機能的トレーニングが生活機能に及ぼす影響.
第 53 回日本老年医学会学術集会, 2011 年 6 月 16 日, 東京.

大矢敏久, 島田裕之, 牧迫飛雄馬, 土井剛彦, 吉田大輔, 鈴木隆雄, 内山靖:
手段的日常生活活動の自立した地域在住高齢者の転倒恐怖感と関連する要因の検討.
第 46 回日本理学療法学術大会, 2011 年 5 月 29 日, 宮崎.

島田裕之, 鈴木芽久美, 牧迫飛雄馬, 土井剛彦, 吉田大輔, 鈴木隆雄:
歩行時の脳活動—FDG PET による検討—.
第 46 回日本理学療法学術大会, 2011 年 5 月 28 日, 宮崎.

牧迫飛雄馬, 島田裕之, 土井剛彦, 吉田大輔, 伊藤健吾, 加藤隆司, 下方浩史, 鷺見幸彦, 遠藤英俊, 鈴木隆雄:
二重課題条件下での反応時間と認知機能および脳萎縮との関連.
第 46 回日本理学療法学術大会, 2011 年 5 月 27 日, 宮崎.

土井剛彦, 島田裕之, 牧迫飛雄馬, 吉田大輔, 伊藤健吾, 加藤隆司, 下方浩史, 鷺見幸彦, 遠藤英俊, 鈴木隆雄:
高齢者における歩行指標は脳萎縮と関係するのか? -MRI と3軸加速度計を用いた検討-.
第 46 回日本理学療法学術大会, 2011 年 5 月 27 日, 宮崎.

吉田大輔, 島田裕之, 牧迫飛雄馬, 土井剛彦, 伊藤健吾, 加藤隆司, 下方浩史, 鷺見幸彦, 遠藤英俊, 鈴木隆雄:
地域高齢者における内側側頭葉の脳萎縮と日常生活活動との関係.
第 46 回日本理学療法学術大会, 2011 年 5 月 27 日, 宮崎.

鈴木芽久美, 島田裕之, 田村雅人, 鈴木隆雄:
要介護高齢者における主観的転倒リスク評価(SRRST)の有用性.
第 46 回日本理学療法学術大会, 2011 年 5 月 27 日, 宮崎.

吉田大輔, 島田裕之, 牧迫飛雄馬, 土井剛彦, 鈴木隆雄:
近赤外線分光法 (NIRS) を用いた高齢者の四肢筋量ならびに脂肪量の推定.
第 1 回日本基礎理学療法学会学術集会, 2011 年 5 月 26 日, 宮崎.

土井剛彦, 牧迫飛雄馬, 島田裕之, 吉田大輔, 鈴木隆雄:
認知障害を有する高齢者における dual-task 歩行.
第 1 回日本基礎理学療法学会学術集会, 2011 年 5 月 26 日, 宮崎.

大島浩子, 中村孔美, 三浦久幸, 鈴木隆雄:
在宅医療を支援する病棟に入院した高齢者の特性と再入院の関連要因の検討.
日本老年看護学会第 16 回学術集会, 2011 年 6 月 16 日, 東京.

大島浩子, 中村孔美, 松本明美, 鈴木隆雄:
登録制による在宅医療を支援する病棟における癌患者と非癌患者の特性の検討.
第 22 回日本在宅医療学会学術集会, 2011 年 6 月 26 日, 名古屋.

大島浩子, 鈴木隆雄:
在宅医療を支援する病棟に登録した在宅高齢者における在宅療養継続の関連要因の検討.
第 53 回日本老年医学会学術集会, 2011 年 6 月 16 日, 東京.

大島浩子, 征矢野あや子:
高齢者における再入院の関連要因の検討.
第 24 回日本看護福祉学会学術集会, 2011 年 7 月 31 日, 駒ヶ根市.

大島浩子, 尾崎充世, 中村孔美, 鈴木隆雄, 原田敦:
在宅療養高齢者の移動能力の検討.
第 24 回日本老年医学会東海地方会, 2011 年 9 月 17 日, 名古屋市.

大島浩子, 中村孔美, 松本明美, 鈴木隆雄:
在宅療養高齢者における入院時の疾患別の患者特性と支援内容の検討.
第 24 回日本老年医学会東海地方会, 2011 年 9 月 17 日, 名古屋市.

大島浩子:
病院による高齢患者の在宅療養支援-在宅療養選択者とその特性の検討-.
第 31 回日本看護科学学会学術集会, 2011 年 12 月 3 日, 高知市.

大島浩子, 中村孔美, 松本明美, 原田敦, 鈴木隆雄:
在宅療養支援における多職種共同カンファランス実施状況の検討.
第 14 回日本在宅医学会大会, 2012 年 3 月 17 日, 東京.

大塚理加, 平井寛, 近藤克則, 尾島俊之, 西晃弘, 近藤尚己, 大島浩子:
高齢期における配偶者との死別体験が健康に及ぼす影響とソーシャルサポートの効果:
愛知老年学的評価研究(AGES)プロジェクトデータによる検討.
日本老年社会科学会第 53 回大会, 2011 年 6 月 17 日, 東京.

大塚理加, 菊地和則, 野中久美子:
地域包括支援センターにおける在宅高齢者の栄養への取り組みの実態と今後の課題-
第 3 回東京都内の地域包括支援センター実態調査から その 1-.
日本社会福祉学会第 59 回秋季大会, 2011 年 10 月 9 日, 千葉市.

小出由美子、佐竹昭介、山岡朗子、渡辺 哲、石橋謙一郎、星山明代、金子康彦、村崎明

広、宮城笑美子、村山祐子、細井孝之：
NST 依頼のあった認知症患者の問題点とその対応。
第 26 回日本静脈経腸栄養学会，2011 年 2 月，名古屋。

佐竹昭介、葛谷雅文、井口昭久：
インスリン分泌・糖取り込みへの少量果糖投与の影響。
第 83 回日本糖尿病学会中部地方会，2011 年 4 月，富山。

佐竹昭介、野村秀樹、三浦久幸、遠藤英俊：
経口ブドウ糖負荷後の糖代謝に及ぼす少量果糖投与の影響—年齢層別・耐糖能別の比較検討—
第 54 回日本糖尿病学会年次学術集会，2011 年 5 月，札幌。

佐竹昭介、野竹恵美子、後藤友美、洪英在、三浦久幸、遠藤英俊、小出由美子、細井孝之：
高齢者総合診療科病棟における短時間合同カンファレンスの試み。
第 53 回日本老年医学会学術集会，2011 年 6 月，東京。

4. その他,セミナー等

近藤和泉：
脳性麻痺ガイドライン、ICF-CY と脳性麻痺の評価(GMFCS, GMFM, PEDI)
NPO 法人 Ryoiku Circle はなはな主催講演，2010 年 11 月 6,7 日，霧島市。

大島浩子
病院・在宅における脳卒中高齢患者の看護。
愛知県立大学看護学部老年看護学科目内特別講義(老年看護方法論)，2011 年 6 月 7 日，名古屋市。

大島浩子
高齢者の在宅看取り。高齢者の在宅医療：在宅医療を推進する能力を養う。
(独)国立長寿医療研究センター 高齢者医療・在宅医療総合看護研修カリキュラム，
2011 年 9 月 27 日，大府市。

III. 競争的資金獲得実績

1. 厚生労働省

近藤和泉（代表）（総額 2,499 万円）
老人保健事業推進費(老人保健健康増進等事業)
摂食嚥下障害に係る調査研究

近藤和泉（代表）（総額 1,333.2 万円）
厚生労働科学研究費補助金(長寿科学総合研究事業)
(H23-長寿-一般-003)

在宅療養中の胃瘻患者に対する摂食・嚥下リハビリテーションに関する総合的研究

島田裕之（分担）（代表一括計上）
厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）
先進的自立支援機器を用いた介護予防の効果検証

島田裕之（分担）（代表一括計上）
老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）
介護予防事業の推進に関する調査研究事業

島田裕之（分担） 200 万円
厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）
高齢者における加齢性筋肉減弱現象（サルコペニア）に関する予防対策確立のための包括的研究

2. 文部科学省

近藤和泉 50 万円
科学研究費補助金（挑戦的萌芽）平成22年度～平成24年度
脳性麻痺児の生活機能スキルのデータベース作成に関する研究

島田裕之（代表）（総額 750 万円）
科学研究費補助金（基盤研究B）
認知機能低下抑制を目的とした多面的活動プログラムの開発と効果検証

3. 財団、その他

近藤和泉（代表）（総額 130 万円）
長寿科学研究者支援事業、長寿科学振興財団
高齢者の転倒リスクに対する自覚・受容能力の評価に関する研究

大島浩子（分担） 300 万円
独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構。
生活支援ロボット実用化プロジェクト, 安全技術を導入した搭乗型生活支援ロボットの開発, 搭乗型生活支援ロボットにおけるリスクアセスメントと安全機構の開発: 実証実験を伴う搭乗型ロボットリスクアセスメントの研究開発.

大島浩子（分担） 40 万円
在宅医療研究助成勇美記念財団。
平成23年度在宅医療推進のための会.

大島浩子（分担） 50 万円
JST(独)科学技術振興機構, RISTEX. 平成22年研究開発プログラム「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」. 地域診断標準ツールの開発研究.